



# 校長室だより 足立区立第九中学校

第75号 平成29年2月1日発行 長塚琢磨



## 【春に向かって動き出す！】

1年間でもっとも寒い時期を通過し、土や草木に春が動き始めています。学校でも、現在3年生が高校受験等に挑戦し、15歳の春を自らの力で切り拓いています。緊張、うれしさ、悔しさなど、どれも人生の中では生徒を成長させる大切な経験なのです。



何人もの生徒が、「校長先生、合格しました。ありがとうございました。」と挨拶に来てくれました。私は、「偉い。よく頑張ってくれた。」と褒めるとともに、「高校を卒業するときにさらに立派になること」「仲間が全て合格するまで協力すること」を頼みました。

保護者の皆様も不安はあると思いますが、大きく構え、頑張っている我が子を信じて協力をお願いいたします。必ず春は来ます。

## 【2月9日に日本代表チーム来校！】

2月9日（木）第5・6校時に、“トップアスリートから学び「未来へ飛翔」授業”として、シッティングバレーボールの日本代表チームが九中に来てくださることになりました。右の写真は、昨年5月のポーランド・エルブロング大会のもので、



選手の皆さんは、つらい経験を仲間やスポーツとの出会いなどで乗り越えて、現在に至っています。選手の皆さんにとっての「スポーツ」「パラリンピック」「豊かな人生」とは何かを聴き、生徒が自分の人生を豊かにすることに生かしてほしいと考えています。

## コラム：オリンピックの「五輪の旗」の意味

オリンピックの旗には、五つの輪を組み合わせたマークが描かれています。世界の五つの大陸の友情と協力を意味し、世界中がオリンピックを通して結ばれること、世界中から選手が集うことを表現しています。



五つの輪は、左から青、黄色、黒、緑、赤の順に並んでいます。この5色と背景の白を入れた6色で、世界のほとんどの国旗が描けることから、“世界は一つ”という意味を込めてこの色が選ばれました。

このシンボルマークは、1894年に国際オリンピック委員会を設立し、1896年の近代オリンピック第1回アテネ大会を会長として務めた、ピエール・ド・クーベルタンが考えたものといわれています。オリンピックは、競技の成績だけでなく、交流等を通じて、互いを理解し合い、人間として成長することも大切ですね。

## 【体験してわかる防災の重要性！】

「火事だーっ！」と大きな声でみんなに伝え、消火器を持って初期消火に向かう生徒をたのもしく思いました。また、震度7を体験した生徒は、「絶対に動けません。」「家の中を整理しておかないとダメだと思います。」と感想を語ってくれました。

1月24日（火）に、消防庁の協力を得て開催した防災体験では、中学生として、自助（自分を守る）と共助（協力してみんなを守る）の意識も高まり有意義な体験となりました。



## 【百人一首大会で燃える1年生！】

1月25日（水）の午前に、1年生の百人一首大会が開催されました。生徒たちは、日本の伝統・文化である百人一首を、琴の音をバックに、思いっきり楽しんでいました。

特に、上の句を読み始めた瞬間に、「はい！」と言って取る姿は圧巻でした。日本の素敵な伝統・文化をたくさん経験してほしいと感じました。



## 【鎌倉校外学習での立派な姿の2年生！】

1月31日（火）に鎌倉校外学習があり、生徒たちは、30班に別れ、自ら計画を立て、丸一日の班行動をしっかりと見せてくれました。

私は、鶴岡八幡宮のガードマンさんやお店の方々に、笑顔が素敵でしっかり班行動をする生徒さんですねと、褒められました。

生徒たちは、「自分たちで決めたルールを“守る”自覚と責任をもって修学旅行につなげたい」という目標を果たしてくれたと感じています。 [右の2つの写真は、何処かわかりますか？→]



## 【2月に贈る詩】

春

宮沢 賢治

陽が照って鳥が啼き

あちこちの檜の林も

けむるとき

ぎちぎちと鳴る

汚い てのひら 掌 を

おれはこれから

もつことになる

※ 宮沢賢治が農学校の教師をしていたときに感じたことだそうです。

カサカサの手で農業を行う農民の力強さを賢治自身が体験したからこのような詩がつくれたのではないのでしょうか。